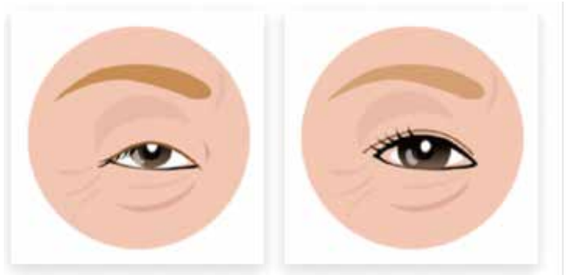
病気のお話
Byōki no ohanashi

眼瞼下垂症の手術について

寺岡記念病院　形成外科
診察日／水曜日・土曜日

1．眼瞼下垂とは？

老化やコンタクトレンズの長期使用などが原因で、まぶたが下がって開けにくくなる状態のことを言います。

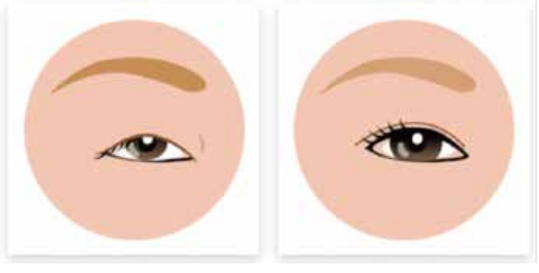


2．症状は？

以下のような症状が有る方は、眼瞼下垂の可能性があります。

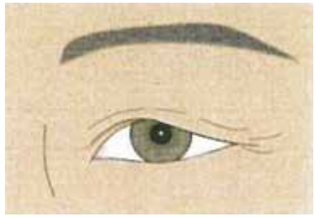
- まぶたが重く開けづらい
- 左右で目の大きさが違う
- 視野が狭くなった
- 片頭痛がある
- 眼精疲労が強い
- 額のシワが目立つようになった
- 肩こりがある
- 昔に比べ目が小さくなった気がする
- 上まぶたがへこんでいる

老化だから仕方がないか･･･と、諦める必要はありません。
手術によって治療することができます。手術方法は、大きく分けて2通りありますが、両方同時に行うこともできます。



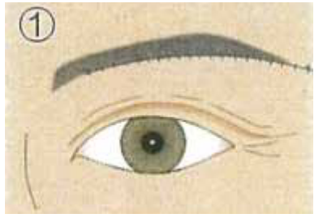
3．手術方法

①皮膚がたるんでいる場合

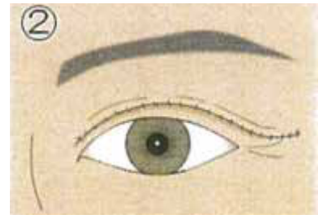


まぶたを開く機能は正常ですが、たるんだ皮膚が前に覆いかぶさって視野を塞いでいる状態です。視野を確保するために眉毛を上に挙げる傾向があります。

局所麻酔注射後に、たるんだ皮膚を切除します。
切除の方法は2通りあります。
①眉毛下の皮膚を切除する方法
② まぶたの皮膚を切除する方法



①眉毛下の皮膚を切除する方法
まぶたの皮膚に手を加えないため、より自然な二重になります。



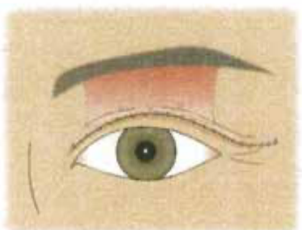
② まぶたの皮膚を切除する方法
二重のラインをある程度自由に決められます。
皮膚の切除量が多い場合や、皮膚が厚い場合は、やや不自然な仕上がりとなることがあります。

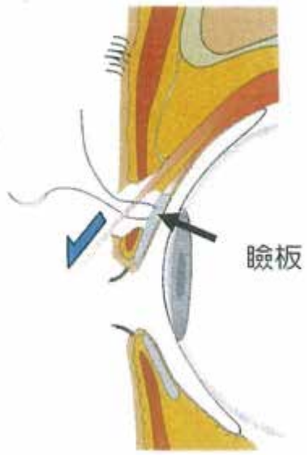
【術前】

【術後】

②まぶたの筋肉が緩んでいる場合

上まぶたを挙げる筋肉の一部が緩んで、十分に目を開くことができない状態です。この場合も視野を確保するために、まつげを挙げる傾向があります。





局所麻酔の注射後、二重のラインを切開し、ゆるんだ筋肉の一部を引っ張り出して、まぶたの瞼板という組織に縫合します。皮膚が余る場合には皮膚の切除も行います。

体を起こした状態で、十分目が開くことを確認後、皮膚縫合し て手術終了です。術後は楽に目を開けることが可能となり、眉毛も本来の位置に下がってきます。

【術前】

【術後】

4.手術までの流れ

①医師の診察

できる限り理想のまぶたに近づけられるように、手術を担当する医師が皮膚の状態や、まぶたの筋肉の機能などについて詳しく診察を行います。この際、術後との比較の為、写真を何枚か撮影させて頂きます。

②手術日の予約、同意書の作成

手術をご希望される場合、患者さんのご都合に合わせ、手術日を予約させていただきます。患者さんに合った手術法について担当医から詳しい説明があります。十分納得していただいてから同意書にサインをお願いします。

③術前検査

手術に備え、感染症や出血しやすい病気をお持ちでないか、簡単な採血検査を行います。

※心臓や脳の病気で、抗凝固剤（血をサラサラにするお薬）を飲まれている方は、診察時に必ず医師、または看護師にお伝えください。

5.手術後の注意点

①手術終了後、30分から1時間、処置室でまぶたのクーリングを行った後、出血等の問題がないことを確認してからご帰宅していただきます。

②ご帰宅後もできるだけ、２４時間はまぶたのクーリングを行ってください。

③1週間は激しい運動はお控えください。

④入浴は手術翌日から可能です。お化粧は、抜糸翌日からできます。

⑤抜糸は、１週間後の外来で行います。その後は、術後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月を目安に受診をお願いしています。

お問い合わせは、寺岡記念病院　形成外科・整形外科まで